

陸連時報 三

2018
平成30年

3 月号

題字は平沼亮三(初代陸連会長)の書

目 次

2018年を迎えて(専務理事 尾縣貢).....	166
2018日本グランプリシリーズ情報.....	167
JAAF公認コーチ養成講習会専門科目講習会報告(普及育成委員会 沼澤秀雄).....	172
“日清食品カップ”第20回全国小学生クロスカントリーリレー研修大会報告 (普及育成委員会 普及育成部 岸政智).....	173
日本陸連栄養セミナー2018開催要項.....	174
「安藤財団グローバルチャレンジプロジェクト」支援対象者決定のお知らせ.....	175
IAAF RDC Beijing2017 Competition Organization Seminar 報告書 (日本陸連事業部競技会運営課 浅田大吾).....	176
2017数字で見る陸上競技Vol.4 都道府県別高校生陸上競技部員割合.....	177
大会観戦ガイド.....	178
陸協NEWS.....	180
事務局からのお知らせ.....	182

公告

「陸連時報」は公益財団法人日本陸上競技連盟定款第4条第6号の「機関誌」の性格を有するものですが、毎月「陸上競技マガジン」と一体として発行しています。陸上競技に関する啓発記事のほか、必要に応じて、評議員会、理事会の決定事項、各専門委員会、事務局からの報告、通達も掲載いたします。本時報に掲載した通達は、公式に通達したものと取扱わさせていただきますので、登録競技者は本時報の掲載内容にご注意下さい。また、陸上競技指導者の方は、所属競技者にお知らせ下さるようお願い致します。

公益財団法人日本陸上競技連盟

2018年を迎えて

専務理事 尾縣 貢



2017年は、日本陸上競技連盟発足以来93年の歴史において大きな変革の年になりました。JAAF 2017 VISION（中長期計画）の公表、東京オリンピックに向けてのマラソン選考レース（MGC：Marathon Grand Championship）の導入、ウエルネス陸上推進に向けた本格的な始動、競技施設の公認ルールに関する柔軟な対応などの多くの画期的な取り組みがありました。また、日本人の壁となっていた100m10秒を突破する桐生祥秀（東洋大学）の9.98秒の日本記録樹立、男子50km競歩陣の世界陸上競技選手権大会（ロンドン）2、3、5位入賞など競技面での大躍進もありました。

2018年は、昨年に踏み出した第一歩をそのまま軌道に乗せていかなければなりません。何より東京オリンピックに向けて競技力向上を一層推進していく必要があります。8月に開催されますインドネシアでのアジア大会をステップにして、東京オリンピックへの歩みを加速したいと考えます。これに加え、2020東京オリンピックの準備が佳境に入る一年であるため万全の体制での取り組みが求められます。東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会との連携・協力体制のもと、本連盟としては特に競技運営面での準備を強力に進めていく年となるでしょう。

2018年は東京オリンピックに向けて、そしてポスト2020年にとって重要な年です。本年の主要な取り組みとして以下の5点をあげます。

1. アジア大会への取り組み

45か国・地域、44億人を超える人口を抱えるアジアは、陸上競技のレベルも着実に高まっています。また、アフリカなどからの国籍変更選手により、短距離、長距離・マラソンを中心にレベルは引き上げられています。アジアでの活躍なくして、オリンピックでは戦えないでしょうから、東京オリンピックに向けての大きなステップとなります。

酷暑の環境での戦い方やコンディショニングは、東京オリンピックにも共通するものであり、競技目標の達成を目指すだけでなく、東京オリンピック対策の機能を持たせたいと考えています。

2. ポイント制導入への対応

2019年世界陸上競技選手権大会（ドーハー）及び

2020年東京オリンピックは、標準記録ではなく、それぞれのアスリートが一定の期限内の競技会で得たポイント数により、その出場権を獲得するというルールが国際陸連によって示されました。世界陸上やオリンピックを頂点とし、アジア地域の競技会、そして国内の競技会までが格付けされ、それぞれのカテゴリーの競技会での順位得点と記録得点を合算した上で、規定の競技会数の合計ポイントが個人の持ち点となるわけです。この変更により、一回きりの好記録ではなく、コンスタントに好記録をマークすることが及びより高いカテゴリーの競技会で上位に食い込むことがオリンピックや世界陸上の出場権を得る上で有利になります。詳細は今後公表されることとなりますが、場合によっては今後、多少の強化策の軌道修正が必要となってくる。

3. アジアジュニア選手権大会における強化育成と審判教育

6月7～9日に、岐阜市で第18回アジアジュニア選手権大会が開催されます。この大会は、東京オリンピックを目指すアスリート、そしてポスト2020年にわが国の陸上競技を担うアスリートの登竜門になることでしょう。

また、東京オリンピックに向けて競技運営力を高める場としても重要な意味を持ちます。オリンピックで核となる競技役員には、国際審判に求められる高い運営能力やホスピタリティなどの資質能力を高めていただく機会として重視したいと考えます。

4. MGCへの取り組み

昨年からはまったMGCシリーズは、4レースを終えました。MGCファイナルへの出場権を得たランナーは男子5名、女子1名。これから多くのランナーが東京オリンピックの出場権を目指して、MGCシリーズにチャレンジしてくれることを期待しています。

東京オリンピックのマラソンコースでの2019年秋季MGCファイナル開催を目指し、諸々の準備を進めてまいりますので、関係各位のご理解とご協力を願います。

5. ウエルネス陸上

IAAFビジョンの大きな2本の柱の一つが、健康や楽しみを求めて行うウエルネス陸上の発展です。市民マラソンなどの健全な普及を図ることにより、スポーツ庁が掲げる「成人の週1回以上のスポーツ実施率を2/3以上に増やすこと」という目標の達成に邁進したいと考えています。そのためには、日本陸連が先頭に立ち、大会同士の情報の交換、安心安全な大会づくり、正しいランニングの普及、ランナーサービスなどについて積極的に推進をしていきます。これらを効率良く進めていくためには、ランナー登録の必要性、そしてそれを進めていくための組織の強化が必要です。

加盟団体、協力団体、スポンサー各社、陸上ファンの皆様の支えをいただきながら本年の活動を展開してまいりますので、ご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2018日本グランプリシリーズ要項

公益財団法人日本陸上競技連盟

1. シリーズ指定大会

(1) 日本グランプリプレミア (以下、GPP) 4大会

- 1) TOKYO Combined Events Meet 2018
- 2) 第66回 兵庫リレーカーニバル
- 3) 第52回織田幹雄記念国際陸上競技大会
- 4) 第34回静岡国際陸上競技大会

(2) 日本グランプリ (以下GP) 9大会

- 1) 第27回金栗記念選抜陸上中長距離熊本大会
- 2) 吉岡隆徳記念第72回出雲陸上競技大会
- 3) 2018水戸招待陸上兼水戸市陸上競技大会
- 4) 第29回ゴールデングেমズinのべおか
- 5) 第5回木南道孝記念陸上競技大会
- 6) 2018布勢スプリント
- 7) 第15回田島直人記念陸上競技大会
- 8) 第32回南部忠平記念陸上競技大会
- 9) 日本グランプリ北九州大会 (予定・正式名称後日発表)

2. 実施種目

(1) 日本グランプリプレミア

別紙参照。

(2) 日本グランプリ

別紙参照。

3. 招待基準・参加資格

(1) 日本グランプリプレミア

- 1) 国内招待競技者 (対象競技者は後日日本陸連より連絡)
 - ①日本陸上競技連盟強化競技者 (ゴールド・シルバー) ※関連種目でも招待。
 - ②ロンドン2017世界選手権日本代表競技者 (リレーは含まない)
 - ③2017年度日本陸上競技選手権大会の各種目3位までの競技者。但し、その種目に限る。
 - ④第101回日本陸上競技選手権大会クロスカントリー競走のシニア男子10kmの優勝者と、シニア女子8kmの優勝者は、5000m及び10000mに招待する。

※男女5000mと男女10000mは、相互の種目で有効。

- ⑤上記に該当しない2017年度日本ランキング上位の競技者の中から、日本陸連強化委員会及び主催者が特別に推薦する競技者

2) 一般参加競技者

- ①規定有効期限内に参加標準記録を満たした競技者。
- ②日本陸上競技連盟強化委員会及び主催陸上競技協会が推薦する競技者。

(2) 日本グランプリ

1) 国内招待競技者

次の優先順位で1名を招待する。

- ①日本陸上競技連盟強化競技者 (ゴールド・シルバー) ※該当種目を対象とする。
- ②ロンドン2017世界選手権日本代表競技者 (リレーは含まない)
- ③2017年度日本陸上競技選手権大会の各種目1位～3位までの競技者。但し、その該当種目を対象とする。
- ④上記に該当しない2017年度日本ランキング上位の競技者の中から、日本陸連強化委員会及び主催者が特別に推薦する競技者
※上記で招待する1名以外の招待競技者については、各大会独自の招待基準で招待。

2) 一般参加競技者

開催種目の出場人数などは、各大会の開催規模に合わせて判断いただくが、下記①、②の競技者が申し込みをした場合、優先的にエントリーする。

- ①日本グランプリプレミア参加標準記録を突破している競技者
- ②日本陸連強化委員会又は主催陸協推薦競技者
- ③主催陸協が認める競技者

〈2018 日本グランプリ プレミア実施種目および参加標準記録〉

(男子)

種目	エントリー 規定数	参加標準記録	1	2	3	4
			東京混成	兵庫リレーカーニバル	織田記念	静岡国際
			駒沢	ユニバー記念	エディオン	エコパ
			4月21日(土) 4月22日(日)	4月22日(日)	4月29日 (日・祝)	5月3日 (木・祝)
100m	24	10.40			○	
200m	24	21.00				○
400m	24	46.90				○
800m	16	1'49"80				○
1500m	16	3'45"00		○		
5000m	—	13.45.00			○	
10000m	—	28.26.00		○		
110mH	24	14.00			○	
400mH	24	51.00				○
3000mSC	16	8.52.00		○		
走高跳	12	2m14				○
棒高跳	12	5m30			○	
走幅跳	12	7m70			○	
三段跳	12	15m85			○	
砲丸投	12	16m00	○			
円盤投	12	50m00		○		
ハンマー投	12	62m50				○
やり投	12	74m00			○	
十種競技	16	7000	○			
GPプレミア 実施種目数(2018)			2	4	7	6

(女子)

種目	エントリー 規定数	参加標準記録	1	2	3	4
			東京混成	兵庫リレーカーニバル	織田記念	静岡国際
			駒沢	ユニバー記念	エディオン	エコパ
			4月21日(土) 4月22日(日)	4月22日(日)	4月29日 (日・祝)	5月3日 (木・祝)
100m	24	11.80			○	
200m	24	24.35				○
400m	24	55.10				○
800m	16	2.08.80				○
1500m	16	4'21"50		○		
5000m	—	15.50.00			○	
10000m	—	15.40.00 33.00.00		○		
100mH	24	13.80			○	
400mH	24	59.70				○
3000mSC	16	10.35.00		○		
走高跳	12	1m74		○		
棒高跳	12	3m80			○	
走幅跳	12	6m00		○		
三段跳	12	12m48				○
砲丸投	12	13m80	○			
円盤投	12	46m00		○		
ハンマー投	12	54m00				○
やり投	12	53m50			○	
七種競技	16	4800	○			
GPプレミア 実施種目数(2018)			2	6	5	6
男女計(GP種目)			4	10	12	12

(2018 日本グランプリ・開催期日及び種目配置)

(男子)

種目	強化 カテゴリー	1	2	3	4	5	6	7	8	9	GP ■ □	Non GP □
		金栗記念	出雲陸上	水戸招待	GG延岡	木南記念	布勢 スプリント	田島記念	南部記念			
		県民総合	浜山	Kスタ 水戸	西階	ヤンマー スタジアム	布勢総合	維新百年 記念	厚別	北九州		
		4月7日 (土)	4月21日 (土) 4月22日 (日)	5月5日 (土・祝)	5月5日 (土・祝)	5月6日 (日)	6月3日 (日)	6月3日 (日)	7月8日 (日)	10月最終週 (予定)		
100m	Gold		■	□			■	□	□		2	3
200m	Gold								■		1	0
400m	TOP8		■			■					2	0
800m	TOP8			□				■			1	1
1500m	WC	□			■						1	1
5000m	TOP8	■			■						2	0
10000m	TOP8				□						0	1
110mH	TOP8			□		■	■		□	□	2	2
400mH	メダル					■			■		2	0
3000mSC	TOP8										0	0
走高跳	TOP8			■						■	1	0
棒高跳	メダル			■					■		2	0
走幅跳	TOP8			■				■	□	□	2	1
三段跳	TOP8							■	■		2	0
砲丸投	WC			■						■	1	0
円盤投	WC			■							1	0
ハンマー投	WC					■					1	0
やり投	メダル							■	■	□	2	0
十種競技	TOP8										0	0
実施種目数 (GP種目)		1	2	5	2	4	2	4	5	2		

400m→300m

(女子)

種目	強化 カテゴリー	1	2	3	4	5	6	7	8	9	GP ■ □	Non GP □
		金栗記念	出雲陸上	水戸招待	GG延岡	木南記念	布勢 スプリント	田島記念	南部記念			
		県民総合	浜山	Kスタ 水戸	西階	ヤンマー スタジアム	布勢総合	維新百年 記念	厚別	北九州		
		4月7日 (土)	4月21日 (土) 4月22日 (日)	5月5日 (土・祝)	5月5日 (土・祝)	5月6日 (日)	6月3日 (日)	6月3日 (日)	7月8日 (日)	10月最終週 (予定)		
100m	リレー		■	□			■	□			2	2
200m	リレー						□		■		1	1
400m	リレー		■			■					2	0
800m	WC							■			1	0
1500m	WC	■			□						1	1
5000m	メダル	■			■						2	0
10000m	メダル										0	0
100mH	WC			□		■	■			□	2	1
400mH	WC					■			□		1	1
3000mSC	TOP8										0	0
走高跳	WC			■							1	0
棒高跳	WC			■							1	0
走幅跳	WC			■				■			2	0
三段跳	WC								■		1	0
砲丸投	WC								■	■	1	0
円盤投	WC			■							1	0
ハンマー投	WC							■			1	0
やり投	メダル							■	■	□	2	0
七種競技	WC										0	0
実施種目数 (GP種目)		2	2	4	1	3	2	4	4	1		

400m→300m

男女計 (GP種目)	3	4	9	3	7	4	8	9	3
------------	---	---	---	---	---	---	---	---	---

※Non GP種目はこの他に主催者が追加することができる。

2018 日本グランプリシリーズ 大会情報

GP プレミア

GP プレミア TOKYO Combined Events Meet 2018 兼 ジャカルタ 2018 アジア競技大会 代表選手選考競技会	
大会日	2018年4月21日(土)～22日(日)
大会会場	駒沢オリンピック公園総合運動場陸上競技場 〒154-0013 東京都世田谷区駒沢公園1-1
大会事務局	〒160-0021 東京都新宿区歌舞伎町1-28-3 武井ビル5階 公益財団法人東京陸上競技協会 TEL: 03-3203-6123 / FAX: 03-5292-0196
大会ホテル	ホテル棍ヶ谷プラザ 〒213-0033 神奈川県川崎市高津区下作延3丁目14-25 TEL: 044-861-2111 / FAX: 044-861-0332 ホテルサーブ渋谷 〒153-0044 東京都目黒区大橋2丁目24-4 TEL: 03-5433-8711 / FAX: 03-3795-1023
申込ホームページ	http://www.toriku.or.jp

GP プレミア 第66回兵庫リレーカーニバル 兼 ジャカルタ 2018 アジア競技大会 代表選手選考競技会	
大会日	2018年4月22日(日)
大会会場	ユニバー記念競技場 〒654-0163 神戸市須磨区緑台 TEL: 078-793-6150
大会事務局	〒650-8571 神戸市中央区東川崎町1-5-7 神戸新聞社 地域活動局事業部内 TEL: 078-362-7086 / FAX: 078-360-5519
大会本部 ホテル	ANA クラウンプラザホテル神戸 〒650-0002 神戸市中央区北野町1丁目 TEL: 078-291-1121 / FAX: 078-291-1151
申込ホームページ	http://www.haaa.jp

GP プレミア 第52回織田幹雄記念国際陸上競技大会 兼 ジャカルタ 2018 アジア競技大会 代表選手選考競技会	
大会日	2018年4月29日(日・祝)
大会会場	広島広域公園陸上競技場 〒731-3167 広島市安佐南区大塚西五丁目1番1号 TEL: 082-848-8484 / FAX: 082-848-8460
大会事務局	〒730-0011 広島市中区基町4-1 広島県体育協会内 広島陸上競技協会 TEL: 082-223-3256 / FAX: 082-222-6991
大会本部 ホテル	リーガロイヤルホテル広島 (RIHGA ROYAL) 〒730-0011 広島市中区基町6-78 TEL: 082-502-1121 / FAX: 082-228-5415
申込ホームページ	http://hiroshimattf.org

GP プレミア 第34回静岡国際陸上競技大会 兼 ジャカルタ 2018 アジア競技大会 代表選手選考競技会	
大会日	2018年5月3日(木・祝)
大会会場	静岡県小笠山総合運動公園 エコバスタジアム 〒437-0031 袋井市愛野2300-1 TEL: 0538-41-1800 / FAX: 0538-41-1807
大会事務局	〒420-0839 静岡市葵区鷹匠1-14-31 吉野青ビル2F 静岡陸上競技協会 静岡国際陸上事務局内 TEL/FAX: 054-253-9801
大会本部 ホテル	掛川グランドホテル 〒436-0002 掛川市亀ノ甲1-3-1 TEL: 0537-23-3333 / FAX: 0537-23-2290
申込ホームページ	http://www2.wbs.ne.jp/~nagata/t&/

GP

GP 第27回金栗記念選抜陸上中長距離熊本大会 2018	
大会日	2018年4月7日(土)
大会会場	熊本県民総合運動公園陸上競技場 〒861-8012 熊本県熊本市東区平山町2776
大会事務局	〒861-8046 熊本県熊本市東区石原2-9-1 熊本県民総合運動公園内 (一財) 熊本陸上競技協会 TEL/FAX: 096-388-1688
申込ホームページ	http://www.kumariku.org/

GP 吉岡隆徳記念 第72回出雲陸上競技大会	
大会日	2018年4月22日(日)
大会会場	島根県立浜山公園陸上競技場 〒699-0722 島根県出雲市大社町北荒木1868-10 TEL: 0853-53-4533 / FAX: 0853-53-4556
大会事務局	〒693-0021 島根県出雲市塩冶町399-18 出雲陸上競技協会 FAX: 0853-24-3867
申込ホームページ	http://www.shimariiku.jp

GP 2018 水戸招待陸上兼水戸市陸上競技大会	
大会日	2018年5月5日(土)
大会会場	ケーズデンキスタジアム水戸 〒310-0914 茨城県水戸市小吹町2058-1 TEL: 029-241-8484
大会事務局	〒310-0913 茨城県水戸市見川町2256 (公財) 水戸市スポーツ振興協会事務局 事業課スポーツコンベンション推進係 TEL: 029-243-0111 / FAX: 029-243-8271
申込ホームページ	http://maas.or.jp

GP 第29回ゴールデンゲームズinのべおか	
大会日	2018年5月5日(土)
大会会場	延岡市西階総合運動公園陸上競技場 〒882-0804 宮崎県延岡市西階町1丁目3800 TEL: 0982-32-5832
大会事務局	〒882-0031 宮崎県延岡市中川原町5-4960 旭化成陸上部内 ゴールデンゲームズinのべおか実行委員会 TEL: 0982-21-1979 / FAX: 0982-22-6019
申込ホームページ	http://ggn.docomomasahi.gr.jp

GP 第5回木南道孝記念陸上競技大会	
大会日	2018年5月6日(日)
大会会場	ヤンマースタジアム長居 〒546-0034 大阪府大阪市東住吉区長居公園1-1
大会事務局	〒546-0034 大阪府大阪市東住吉区長居公園1-1 ヤンマースタジアム長居内 (一財) 大阪陸上競技協会 TEL: 06-6697-8899 / FAX: 06-6697-8766
申込ホームページ	

GP 第15回田島直人記念陸上競技大会	
大会日	2018年6月3日(日)
大会会場	維新みらいふスタジアム 〒753-0815 山口県山口市維新公園4-4 TEL: 083-922-2788 / FAX: 083-922-2769
大会事務局	〒753-0815 山口県山口市維新公園4-4 維新みらいふスタジアム内 (一財) 山口陸上競技協会 TEL: 083-920-6125 / FAX: 083-920-6125
申込ホームページ	http://yaaf.jp/

GP 布勢スプリント2018	
大会日	2018年6月3日(日)
大会会場	布勢総合運動公園陸上競技場 〒680-0944 鳥取県鳥取市布勢146-1 TEL: 0857-28-7221 / FAX: 0857-28-1399
大会事務局	〒680-0944 鳥取県鳥取市布勢146-1 布勢総合運動公園陸上競技場内 (一財) 鳥取陸上競技場 TEL: 0857-28-6540 / FAX: 0857-28-6540
申込ホームページ	http://www.hal.ne.jp/trk/

GP 第31回南部忠平記念陸上競技大会	
大会日	2018年7月8日(日)
大会会場	札幌厚別公園陸上競技場 〒004-0033 北海道札幌市厚別区上野幌3条1丁目 TEL: 011-894-1144 / FAX: 011-894-4299
大会事務局	〒003-0026 札幌市白石区本通5丁目南4番11号 KJビル3号棟2階205号室 (一財) 北海道陸上競技協会 TEL: 011-598-7407 / FAX: 011-598-7408
申込ホームページ	http://hokkaido-rikkyo.jp/

GP (予定) 日本グランプリ北九州大会	
大会日	2018年10月最終週
大会会場	北九州市立本城陸上競技場 〒807-0806 福岡県北九州市 八幡西区御開4丁目16-1 TEL: 093-692-0886
大会事務局	〒812-0011 福岡市博多区博多駅前2-1-1 福岡朝日ビルB2 (一財) 福岡陸上競技協会 TEL/FAX: 092-474-0002
申込ホームページ	www.fukuriku.com

2018年度日本グランプリシリーズ春季大会招待選手

強化委員会

2018年度日本グランプリプレミアの招待基準と招待競技者は以下の通りとする。

2018年度日本グランプリは招待基準1)～3)の優先順位で1名を招待し、その他の招待競技者は大会の招待基準・支給基準において招待する。

1. 招待基準

- 1) 日本陸連強化競技者（ゴールド・シルバー）
- 2) 世界選手権日本代表競技者（リレーは含まない）
- 3) 2017年度日本選手権大会3位までの入賞者（但し、その種目）

2. 招待競技者一覧

(男子)

種目	招待競技者
100m	山縣亮太、飯塚翔太、桐生祥秀、ケンブリッジ 飛鳥、多田修平、藤光謙司、サニブラウン アブデルハキーム
200m	山縣亮太、飯塚翔太、桐生祥秀、ケンブリッジ 飛鳥、多田修平、藤光謙司、サニブラウン アブデルハキーム
400m	北川貴理、佐藤拳太郎、木村和史、ウォルシュ ジュリアン
800m	川元 奨、村島 匠、三武 潤
1500m	館澤亨次、遠藤日向、廣瀬大貴、小林航央
5000m	大迫 傑、松枝博輝、大六野秀敏、中村匠吾、上野裕一郎、市田孝、設楽悠太
10000m	
110mH	高山峻野、増野元太、大室秀樹、矢澤 航
400mH	安部孝駿、石田裕介、鍛冶木峻、松下祐樹
3000mSC	濱滝大記、松本 葵、山口浩勢
走高跳	衛藤 昂、大田和宏、長谷川直人、戸邊直人
棒高跳	澤野大地、萩田 大樹、山本 聖途、江島 雅紀
走幅跳	橋岡優輝、下野伸一郎、山川夏輝、津波響樹
三段跳	山本凌雅、原田睦希、許田悠貴
砲丸投	畑瀬 聡、山元 隼、武田歴次、中村太地
円盤投	堤 雄司、米沢茂友樹、湯上剛輝
ハンマー投	柏村亮太、内堀弘樹、木村友大
やり投	新井涼平、寒川建之介、小椋健司
十種競技	中村明彦、右代啓祐、清水剛士

(女子)

種目	招待競技者
100m	市川華菜、福島千里、中村水月
200m	市川華菜、今井沙緒里、中村水月
400m	岩田優奈、武石この実、川田朱夏、青山聖佳
800m	北村 夢、川田朱夏、塩見綾乃
1500m	陣内綾子、上田未奈、和田有菜
5000m	安藤友香、松田瑞生、鍋島莉奈、鈴木亜由子、上原美幸、小笠原朱里
10000m	
100mH	木村文子、紫村仁美、相馬絵里子
400mH	青木沙弥佳、吉良愛美、王子田萌
3000mSC	森智香子、高見澤安珠
走高跳	仲野春花、福本 幸、津田 シェリアイ
棒高跳	我孫子智美、仲田 愛、間宮里菜
走幅跳	高良彩花、桐山智衣、甲斐好美
三段跳	宮坂 楓、剣持 クリア、喜田愛以
砲丸投	郡菜々佳、太田亜矢、吉野千明
円盤投	辻川美乃利、郡菜々佳、敷本 愛
ハンマー投	勝山眸美、渡邊 茜、浅田鈴佳
やり投	斉藤真理菜、宮下梨沙、山下実花子
七種競技	ヘンブル 恵、山崎有紀、桐山智衣

※男女5000m、10000mの招待競技者は、今後開催されるマラソンの結果によって追加の可能性があります。

※招待競技者も一般競技者と同様に出場大会に参加申込を行う必要があります。

JAAF公認コーチ養成講習会 専門科目講習会報告

普及育成委員会 沼澤秀雄

JAAFコーチ（公認コーチ）養成講習会を味の素ナショナルトレーニングセンターにおいて2017年12月23日～26日の日程で開催した。公認コーチ養成講習会の目的は、国内トップレベルの競技者の指導・育成・強化にあたる指導者を養成することである。受講者は都道府県陸協で強化担当を務める中学、高校や大学の教員、現役を引退したアスリート、実業団所属の指導者など56名であった。資格取得には日本体育協会主催の集合研修40時間（他競技と合同）とその他研修152.5時間を受講した上で、当連盟主催の集合研修40時間を受講し、自宅学習20時間を経て試験に合格する必要がある。

この講習会を開催する3日前に、ハンマーが頭部に当たるといふ部活動中の事故が発生したことを受けて、講習会の冒頭に安全対策に関する本連盟の取り組みについて映像を観ながら説明したのちグループディスカッションを実施して再発の防止に努めた。

講習は基礎理論と実技に分けて行われ、主な基礎理論では日本陸連専務理事の尾縣貢氏から2020年東京オリンピック・パラリンピックへ向けた日本陸連の強化方針をベースに選手育成における指導者の重要性および必要性について、医事委員会の山澤文裕委員長からは、アンチドーピングに関する最新情報について、栄養学（田口素子氏）では、選手の貧血に対する解消法としての鉄剤注射の危険性についての講義があった。

グループワークでは指導対象者別に選手育成の方法、問題点や組織マネジメントの整備などについてディスカッションを行い、意見をポスターにまとめプレゼンテーションを行った。実技では、3日間にわたって短距離、ハードル、競歩、跳躍、投てきと幅広く種目別指導が行われた。また、3日目の実技のなかで種目別指導実習を実施した。受講者は指導実習に先立ち、コーチングにおいて必要な、コーチ哲学およびスキルを講義によって学習しており、その実践の場として指導実習を設けた。内容としては、

受講者の専門以外の種目について指導案を作成してもらい、それに沿って基本的な指導実践を行うというものである。そして、その指導実践の評価およびフィードバックを国際陸連レベルI講師の資格を持った講師陣によって行った。この講習会において国際陸上競技連盟の基準に則った指導方法を紹介することで一貫指導が行われ、陸上競技の裾野の拡大や事故の防止、ジュニア・ユース選手の育成やトップレベルの強化につながるようになればと考えている。

受講者からは「様々な種目の指導方法を体験できてよかった。」「それぞれの種目指導についてのポイントが具体的にわかってよかった。」といった感想や意見が多く寄せられた。来年度以降も指導実習の進め方等をさらに検討して、コーチングスキルについて指導者同士が積極的に意見交換できる場を設けていきたい。

公認コーチ養成講習会は女性の受講者が少なく、今回も3名の参加のみであった。普及育成委員会では女性指導者が多くなることで日本全体の競技力レベルアップがあると考えており、各都道府県陸協には積極的に推薦をお願いしている次第である。また、ジュニア世代の選手の普及育成および一貫教育を図っていくなかで、公認資格取得の重要性がより一層高まっている。（公）日本体育協会は2019年度に向けて公認コーチの名称変更を含めた資格制度の整備に取り掛かっている。本連盟も連携を取りながら資格の位置づけや内容等を検討しており、公認ジュニアコーチも含め2021年までに5000人の公認指導者認定を目指している。このように2020年東京オリンピック・パラリンピック、またその先を見据え、より多くのレベルの高い公認コーチを養成していく計画である。一方で資格取得者が資格を失効することがないように、資格更新の義務研修を充実させるとともに情報発信等の取り組みを行い、より多くの公認資格者の育成と指導力向上の支援に努めていきたいと考えている。



基礎理論の様子



実技の様子

日清食品カップ第20回全国小学生クロスカントリーリレー研修大会

普及育成委員会 普及育成部 岸 政智

日清食品カップ 第20回 全国小学生クロスカントリーリレー研修大会は、全国46都道府県代表チームとオープン参加の1チーム、地元大阪の3チームを加えた50チームの参加により、平成29年12月9日(土)・10日(日)2日間の日程で開催された。

第1日目は、大阪府池田市民文化会館 大ホール(アゼリアホール)において、開講式と研修会・監督会議が行われた。

13時より選手受付が始まり、14時に開講式が開始された。最初に司会者より、「陸上競技の基本を学び、よい友達づくりをすることを目的とし、小学生期の長距離走・持久走についての正しい技能・トレーニング方法の習得を目指す」という大会の趣旨説明と参加50チームの紹介と挨拶が行われた。

主催者を代表して公益財団法人 日本陸上競技連盟 普及育成委員会委員長 繁田進理事による歓迎と激励及び研修大会としての意義を説明し、開催地池田市を代表して倉田薫市長より歓迎のご挨拶をいただき、14時25分に開講式は終了した。

開講式後、監督者会議は14時30分から2階コンベンションホールに会場を移して行われた。主管である大阪陸上競技協会の司会進行で、大会当日の諸注意が説明され、質疑応答が行われた。

一方、小学生と他の指導者は大ホールで研修会に参加した。研修会は、講師として日本陸上競技連盟普及育成委員会 井筒紫乃委員(長距離走・発育発達)と大畑好美委員(栄養)がクイズ形式で小学生に質問をしながら、発育発達とトレーニングや食事について、ゲストの日清食品グループ陸上競技部の森田修一監督と諏訪利成コーチに経験談などをお聞きしながら、わかりやすく解説した。要約すると、トレーニングは発育発達に応じた内容と量が大切であり、発育発達面からはいろいろな運動を行い、神経系を刺激することが大事。反対に、筋肉や心肺機能の強化はしないようにすること。栄養面ではバランスのとれた食事、特に運動する人はエネルギー源をしっかりと摂ること。最後に今大会プログラムにも掲載してある「P・F・Cバランス」について説明した。3つのバランスをパーセントで記載する問いを出題しました。それぞれ、タンパク質・脂質・炭水化物をどのようなバランスで摂取するかです。各チーム相談をしながら問題に取り組んでいました。結果4チームが見事、正解し景品を手に入れました。

15時15分には監督会議に出席していた監督も戻り、チームごとにまとまって、「カップヌードルミュージアム大阪池田」見学へ向かった。

第2日目は万博記念公園内特設コースにて、友好タイムトライアルとクロスカントリーリレー大会が行われた。

10時45分からの開会式は、主催の公益財団法人 日本陸上競技連盟 横川浩会長、中曽根弘文評議委員会議長、尾縣貢専務理事、繁田進理事・普及育成委員会委員長、後援・協賛をいただいている公益財団法人 安藤スポーツ・食文化振興財団評議委員会議長・日清食品ホールディングス株式会社専務執行役員 松尾昭英様、主管の大阪陸上競技協会会長 松本正義様に御登壇いただき、参加50チームの選手団が一同に整列して行われた。

主催者を代表して日本陸上競技連盟 横川浩会長が歓迎の挨拶を行い、後援・協賛者を代表して公益財団法人 安藤スポー

ツ・食文化振興財団評議委員会議長・日清食品ホールディングス株式会社専務執行役員 松尾昭英様、より激励のご挨拶をいただいた。

選手宣誓は、秋田県代表の秋田市ジュニア陸上競技クラブ 高田将弘君と山元結心さんの二人が元氣よく行い、大会を盛り上げてくれた。

天候は晴れ。10度を超え選手達にとっては、寒すぎず、ちょうど良い気温となった。11時30分に女子友好タイムトライアル、11時40分に男子友好タイムトライアルがスタートした。レースには日清食品グループ陸上競技部の諏訪コーチに参加をしていただき、小学生と一緒に走ってくれた。

クロスカントリーリレーは、11時50分に第1走者が一斉にスタートした。中継所で芳賀真岡陸上クラブとチーム柏が一步も譲らず、5区までデットヒートを繰り返した。5区の芳賀真岡陸上クラブの宮下さんが引き離し、6区海老原君が先頭でフィニッシュテープを切った。優勝記録は30分14秒であった。また1位 芳賀真岡陸上クラブ(栃木)、2位 チーム柏(千葉)、3位 KJR陸上クラブ(東京)と関東勢が表彰台を独占した。終了予定時間の12時30分までには50チーム全てが完走した。13時から表彰式が行われ、入賞8チームと区間最高記録賞の選手が表彰された。競技結果の詳細については日本陸上競技連盟ホームページをご覧ください。

なお、昨年の報告書には、連続出場のチームが21チームと報告したが、今回は参加50チームの内14チームが昨年に続く出場があった。また、常連で出場するチームが上位にきている傾向がある。本大会の趣旨は、普及・研修を目的とした大会と位置づけ、より多くのクラブチームに参加してもらい、より多くの子供たちが走ることに興味を持ち、継続してくれることを期待している。都道府県でのチーム選考については過去にも議論があり、今年度の全国普及育成担当者会議でも議題が上がった。前記の通りジュニア期における、「走り込み」は発育発達やメンタルの観点から問題視されている。今後、普及育成委員会として、第20回の節目として、研修大会としての主旨に立ち返り、運営や選抜方法など早急に検討を重ねていきたい。

最後に、後援・協賛・協力を頂いた各団体と主管いただいた大阪陸上競技協会の皆様へ心より感謝申し上げ、今大会の報告とする。



今回大会のスタートの様子

日本陸連栄養セミナー2018開催要項

日本陸上競技連盟では食育プロジェクトを立ち上げ、選手指導者に対する教育プログラムなどを実施しています。2018年度も選手の栄養サポートに関わる方に広く集まっていただき、「日本陸連栄養セミナー2018」を開催することといたしました。第3回目となる今回は「女性アスリートのエネルギー不足について考える」をテーマに開催いたします。

イベント名	日本陸連栄養セミナー2018
主催	日本陸上競技連盟
日時	2018年4月22日(日) 13時～16時30分
場所	味の素ナショナルトレーニングセンター大研修室
参加資格	実業団、大学、高校、中学などの陸上競技の指導、栄養サポート、医学サポートに携わる方、都道府県陸上競技協会関係者
申込期間	2018年3月1日(水)～
申込方法	日本陸連HP (http://www.jaaf.or.jp/) ※WEBのみの申込となります。
参加費	無料
定員	120名
問合せ	日本陸連指導者養成担当 coach@jaaf.or.jp

▼昨年度実施風景



「安藤財団グローバルチャレンジプロジェクト」 ～2020年へ向けた若手アスリートの海外挑戦支援～ 支援対象者決定のお知らせ

安藤スポーツ・食文化振興財団と日本陸上競技連盟が実施する2020年へ向けた若手アスリートの海外挑戦、武者修行を支援する「安藤財団グローバルチャレンジプロジェクト」の対象者に、現ダイヤモンドアスリートの橋岡 優輝選手（日本大学）、池川 博史選手（筑波大学）、修了生の北川 貴理選手（順天堂大学）、山下 潤選手（筑波大学）をはじめ、計9名の選手が決定しました。世界のトップ選手が集う環境に飛び込み、海外のコーチに指導を乞い、切磋琢磨する中で大きな刺激を受けながら、練習に励んでほしいと期待しています。



桐生 祥秀選手（東洋大学）も、2016年春・夏の2回、「安藤財団グローバルチャレンジプロジェクト」を活用して海外で武者修行を行い、その経験を生かして、2016年8月、リオデジャネイロ・オリンピックでの男子4×100mリレー銀メダル獲得、2017年9月、100mにおいて日本人初の9秒台となる9秒98の日本記録を樹立するなど活躍されました。

■「安藤財団グローバルチャレンジプロジェクト」支援選手一覧

氏名	大学名	学年	年齢	種目	主な日本代表歴・日本選手権等成績	活動先/活動期間(予定)
北川貴理	順天堂大学	3年	21	400m	2015北京世界選手権4×400mR 出場 2016リオデジャネイロ・オリンピック 4×400mR 出場 2017ロンドン世界選手権 出場	キングストン (ジャマイカ) 2/1～2/20(20日間)
橋岡優輝	日本大学	1年	18	走幅跳	2016 U20世界選手権 10位 2017日本選手権 優勝	フロリダ(アメリカ) 1/23～2/22(31日間)
山下潤	筑波大学	2年	20	200m	2016 U20世界選手権 8位 2017ユニバーシアード台北 4×100mR 優勝	オークランド (ニュージーランド) 3/10～4/10(32日間)
池川博史	筑波大学	1年	19	やり投	2016日韓中ジュニア交流 1位 2016 U20世界選手権 出場	フランクフルト (ドイツ) 2/15～3/1(15日間)
ウォルシュ ジュリアン	東洋大学	3年	21	400m	2015ユニバーシアード光州4×400mR 2位 2016リオデジャネイロ・オリンピック 400m、4×400mR 出場	キングストン (ジャマイカ) 2/1～2/20(20日間)
關颯人	東海大学	2年	20	5,000m	2016 U20世界選手権 10,000m 9位 2017出雲駅伝 6区区間賞	ユージーン(アメリカ) 2/4～4/2(58日間)
竹之内優汰	順天堂大学	1年	19	三段跳	2017日中韓3カ国ジュニア交流 6位 2017 U20日本選手権 優勝	シドニー (オーストラリア) 2/7～3/7(29日間)
田上駿	順天堂大学	2年	20	十種競技	2016アジアジュニア選手権 4位 2017日本インカレ 優勝	シドニー・キャンベラ (オーストラリア) 2/24～3/31(36日間)
館澤亨次	東海大学	2年	20	1,500m	2015世界クロスカントリー選手権 出場 2017日本選手権 1,500m 優勝	ユージーン(アメリカ) 2/4～4/2(58日間)

【公益財団法人 安藤スポーツ・食文化振興財団について】

安藤スポーツ・食文化振興財団は、日清食品創業者の安藤百福が、「食とスポーツは健康を支える両輪である」と考え、1983年、私財を提供して設立した公益財団法人です。「走ることはあらゆるスポーツの原点である」という日本陸上競技連盟の考えに、安藤百福が賛同し、1985年から日本陸上競技連盟が主催する「日清食品カップ」全国小学生陸上競技交流大会、1999年から「日清食品カップ」全国小学生クロスカントリーリレー研修大会を後援しています。

2015年からスタートした本プロジェクト実施により、陸上競技の裾野の拡大から、トップレベルの選手育成まで、より広範囲に渡り日本の陸上競技活動を支援していきます。

IAAF RDC Beijing 2017 Competition Organization Seminar 報告書

日本陸連事業部 競技会運営課 淺田大吾

IAAF Regional Development Centre (国際陸上競技連盟 アジア地域陸上競技普及発展センター)が主催するCompetition Organization Seminar (大会運営セミナー)に出席させて頂いた。大会組織委員会および実務部隊の編成、大会企画、競技施設・用器具管理、競技場レイアウト、タイムテーブル作成、国際大会におけるIAAF/AAA派遣役員の役割、競技役員編成、選手・競技役員移動宿泊計画、マーケティング、プロモーション、イベントプレゼンテーション、安全管理、ドーピングコントロール計画などの業務の基本について講義を受け、参加者を2グループ分け、大会を企画するグループプロジェクトが与えられ、最終日にどのような大会をつくるのかをプレゼンする内容だった。各講義において参加者同士のディスカッションを行う機会があり、非常に有意義であった。このような貴重な経験を積むことができ、感謝申し上げたい。

講習全般の報告

【期間】

派遣：2017年11月26日(日)～12月1日(金)

講習：2017年11月27日(月)～30日(木)

【宿舎】

Chengdu Qianxi Hotel (成都千禧大酒店)

食事は基本的に3食。第1日目の夕方はWelcome DinnerがRDCにより主催された。

【講師】

関辛生氏 国際陸上競技委員会委員/IAAF講師/日本陸連事務局 国際専任部長

Kwan Kee 氏 アジア陸上競技委員会委員/IAAF講師/香港陸連会長

非常にポジティブな雰囲気、学びやすい環境をつくっていただいた。

【参加者の構成】

日常から競技場内および道路競技の大会運営に携わる者、審判業務に携わる者が大半を占めたが、国代表選手強化に携わる者もいた。強化関係者も競技運営の知識を持たなければ十分な選手サポートができないので、強化関係者にとっても有意義な内容だったと思う。他国の強化関係者がいることで、大会はあくまでも競技者の育成や強化に貢献できるものにする必要があるということを確認することができた。

【受講者】

Mr. Cheng Shih-Chung (チャイニーズ台北)

Mr. WU Sui Leung / Ms. HO Wing Sze (香港)

Mr. HO Wenghong (マカオ)

Mr. Young Hoon CHUNG (韓国)

Mr. Yap Choon Hoe, Joe / Ms. Carine ATTAN (シンガポール)

Mr. NGUYEN Trung Hinh, Mr. MR. NGUYEN Manh Hung / Mr. DANG Thanh

Hai / Mr. TRAN Xuan Thanh / Mr. NGUYEN Ngoc Quan / Ms. NGUYEN

Thi Xuan Phuong (ベトナム)

Ms. RI Ok Suk / Ms. JI Sol Gyong (朝鮮民主主義人民共和国)

Mr. Sitthisay SACKPASEUTH (ラオス)

浅田大吾 (日本)

【参加者の語学力】

参加者の大半は英語を日常的に利用している者でありコミュニケーションを図るには問題なかった。ベトナム、北朝鮮からも参加者がいたが通訳を介していたため参加者本人がディスカッションにはあまり参加できていないのは残念に思えた。参加者はある程度の英語力を有することが望ましい。もしくは英語は片言でもコミュニケーションを積極的に図る意志が強い人が望ましいと感じた。

【国際交流・情報交換】

講習で学ぶこと以外にも、他国陸連の役職員と親睦を深めることができ、様々な情報交換を行うことができた。参加者や講師との交流や情報交換は、このようなセミナーに参加する意義を高める大きな要素の一つである。参加各連盟が抱えている課題について聞くことができた。参加国関係者と折衝することがあっても円滑に業務を進められる。

講習内容に関する報告

【企画/計画】

国際陸連や本連盟では様々なガイドラインや情報リソースがあり、それらを把握したうえで計画を立てる必要がある。国際陸連からは競技規則、大会運営マニュアル、施設マニュアル、競技会医療マニュアル、ロードレースマニュアル、その他多数のガイドラインがある。日本においては各種規程・規則やガイドラインもあり、それらを考慮して計画を立てる。選手権、対抗戦、招待大会、特別な競技会などの大会形式、開催趣旨、競技場(場所、使用可否、安全・セキュリティ、費用)、開催時期(日時、気候条件、観客、競技役員、放送、日照時間)、実施種目(男女・年齢層含む)の要素を考慮しながら計画を立てることが重要であることが伝えられた。

【組織委員会編成】

円滑な競技運営は行政・自治体、スポンサーなどの団体から協力なくして実現はできない。大会に関係する各団体に当事者意識を植え付けることが重要。組織委員会として委嘱すること、そしてどこまで前倒りに協力させるかが重要だと思われる。またこれらの組織委員会各協力、協賛団体関係者をセレモニーに参加してもらう場面を作ることも検討すべきであることが講義に述べられた。

【実務担当部署の編成】

競技会の規模、実施内容によって、異なってくるが、発生する業務において部署を構築し、効率的な業務遂行が求められる。競技会運営、TIC、施設用器具、移動宿泊、イベントプレゼンテーション、イベント運営、情報処理、広報プロモーション、マーケティングなどの部署が想定される。大会の実施内容や期間を考慮して実務を担当する部署を編成する。

【競技運営】

正しい競技規則の理解、最新の競技規則の掌握、上部団体派遣競技役員との連携は大会運営のポイントとなる。また各部署との情報共有が不可欠。競技施設の状況確認、

写真判定、スタート・インフォメーション・システム、計時機材、トランスポンダー、リザルト情報処理などの機材の確認、競技役員、補助員、スタッフ、ボランティアなどの人材確保と養成に関する徹底が大会責任者や担当者には求められる。また大会規模にもよるが、競技会場、練習会場、ウォームアップ会場とそれぞれ確保していく必要がある。

【国際大会における競技役員】

国際大会においては通常の国内大会の競技役員に加え、国際/アジア陸連よりOrganizational Delegate (組織代表：大会全体の組織運営の確認を行う)、Technical Delegate (競技規則、施設マニュアルを遵守した競技運営の確認)、Medical Delegate (大会の医療関係の責任者)、Doping Control Delegate (ドーピングコントロール代表)が派遣される為、各役員との連携および情報共有が不可欠になってくるので注意したい。

【マーケティング】

大会運営には協賛が欠かせない。スポンサーセールスにおける基本要素として大会の開催趣旨やコンセプトを明確にする、組織委員会に協賛社を紹介できるような人材に委嘱する、各スポンサーの財力に合わせたスポンサーパッケージの設定(協賛レベルの設定)、広告代理店に依頼することなどが述べられた。

【広報およびプロモーション】

観客への来場を呼び掛けるために計画的に広報・プロモーションを実施していく必要がある。対象ターゲット層に大会を周知し、日時・種目・参加選手などの重要情報を伝えたいので、来場やテレビの視聴を呼び掛ける。大会ポスター、チラシから、屋外広告、テレビ、ラジオ、ネットでの広告、ソーシャルメディアの活用など複数媒体を利用し、連動しているプロモーション活動が重要であることが述べられた。また大会に関する記事が掲載されるよう情報をメディアに仕込む、選手によるインタビュー企画、選手の競技パフォーマンス、観客対象者が参加できるイベントなどが例として挙げられた。

【イベントプレゼンテーション】

国際陸連は大会で「イベントプレゼンテーション」の概念を取り入れることを各加盟団体に推進していることが特に強調された。イベントプレゼンテーションは競技場の良い雰囲気をつくりあげ、競技者のパフォーマンスを引き出し、好記録に繋げていくことが求められる。EPマネージャーは競技役員各部署責任者、アナウンス、音響、表彰、放送局、出発係、競技者係、情報処理、場内映像など様々な部署にEPが実施内容に対する理解を予め得ておく必要があり、このポジションこそ競技規則の理解が求められるポジションであることを再認識した。

【競技施設・用器具】

競技会の規模を問わず開催する前には競技場の状態、用器具、各種機材(計時、写真判定、投てき物検査器具など)が揃っており状態も良好であることを確認することが必要。国内では競技場の換気は5年に1回となっているが自主確認も必要であり、問題があれば補修や取り換え、追加購入などを施設管理者に要請しなければならない。また用器具は参加する競技者の数により必要数が左右される。

【タイムテーブル】

国際陸連では午前と夜のセッションの二部制のタイムテーブルを組むがイブニングセッションは全体の尺を2時間半から3時間程度に抑えることを推奨している。テレビの放送や観客の集中度に配慮されたものである。タイムテーブルは様々な要素への配慮が必要である。全上の要素を完全に満たすことは困難であり、妥協も求められる。各種目競技時間、競技者数、競技役員の数、競技場所の数、フィールド各種目の場所、用器具の在庫、種目ごとの設営撤去に要する時間、EPなどの演出、各セッションの最大尺、集客、視聴率、表彰式などのセレモニーなど多数の要素がある。

【移動宿泊/ロジスティクス】

大会運営で、欠かせないのが、人物との動かし方の計画である。競技者・指導者・選手団、役員の空港から宿舎への移動、宿舎から練習会場および競技会場の移動、宿泊部屋数、選手団および関係者の食事(朝・昼・夕)について考慮する必要がある。国際大会では宿泊移動計画を立てるためにPreliminary Entryを受け付ける。宿泊移動の調整を行う日程に合わせてPreliminary Entryを実施すればよい。また上部団体や宿舎・旅行社から予めコンセンサスを得ておく必要がある。大会における選手団の食事・練習・競技当日の動きに関してはマニュアルを作成し、予め周知しておき、現地での質問を最小限に抑えられるようにしたい。

【TIC/Technical Information Centre】

大規模な国際大会ではTICが競技に関する質問、リレーのオーダー用紙、抗議などが多く寄せられる。国際大会においては単なる受付ではなく、選手団に対して大会の顔となり、競技の円滑な運営において大きなウェイトを占める。スタートリストやリザルトの発表、抗議や上訴の適格な処理、競技に関する質疑応答に対応する。競技役員に加え、参加国の言語に対応できる必要がある。

【Technical Meeting】

日本では監督会議にあたる。競技運営に関する連絡事項を伝える会議。会議の尺は1時間以内に収めたい。チームマネージャーの疑問を解消できる良い機会。なお質疑応答は予め書面にて募集しておきたい。質疑応答を会議中に受け付けると収集がつかなくなり、時間が長引いてしまう。選手団のマニュアル内容の充実がこの会議の成功につながる。

【CID】

Championship Information Desk。選手団宿舎において、基本的な情報を選手団に提供する役割を持つ。エントリーリスト、スタートリスト、リザルトの掲載、移動に関する情報、Technical Meetingの質問の受付、該当すればスペシャルドリンクの受付やその他連絡事項を発表する場所。基本的には各ホテルに設置する。最新情報をCIDに随時提供していくことで、適格な情報を迅速に選手団に提供することが可能になり、大会全体の負担を軽減させることができる。

2017数字で見る陸上競技Vol.4 都道府県別高校生陸上競技部員割合

事務局

2017数字で見る陸上競技、4回目の今回は、高校生の陸上競技部員の全高校生生徒数における割合を都道府県別に紹介します。

2016年度の日本陸上競技連盟における高校生登録者を、同年度の高校生生徒数（文部科学省調べ）で割ったものです。

【算出方法】 割合（％）＝（高校生陸連登録者数）÷（高校生全生徒数）×100

都道府県名	2016年度高校生 陸連登録者数	前年比	前年数	2016年度高校生 全生徒数	2016年度割合	2015年度高校生 全生徒数	2015年度割合
北海道	4,170	-156	4,326	129,006	3.2%	131,682	3.3%
青森	1,483	-39	1,522	36,620	4.0%	37,409	4.1%
岩手	1,794	30	1,764	35,110	5.1%	35,313	5.0%
宮城	2,629	26	2,603	61,345	4.3%	61,366	4.2%
秋田	1,371	-54	1,425	25,530	5.4%	26,299	5.4%
山形	1,718	72	1,646	30,861	5.6%	31,225	5.3%
福島	2,127	65	2,062	53,279	4.0%	53,874	3.8%
茨城	2,369	-2	2,371	78,884	3.0%	79,077	3.0%
栃木	1,516	51	1,465	53,802	2.8%	54,035	2.7%
群馬	1,696	-30	1,726	52,890	3.2%	53,016	3.3%
埼玉	5,584	192	5,392	177,926	3.1%	178,227	3.0%
千葉	5,799	35	5,764	152,551	3.8%	152,419	3.8%
東京	8,621	79	8,542	318,447	2.7%	316,933	2.7%
神奈川	6,066	-84	6,150	208,172	2.9%	206,616	3.0%
新潟	2,548	-51	2,599	59,454	4.3%	60,453	4.3%
富山	1,191	32	1,159	28,624	4.2%	28,671	4.0%
石川	1,257	-18	1,275	32,574	3.9%	32,402	3.9%
福井	800	23	777	22,839	3.5%	23,026	3.4%
山梨	950	-4	954	25,501	3.7%	26,072	3.7%
長野	1,760	44	1,716	58,584	3.0%	58,983	2.9%
岐阜	2,163	-11	2,174	56,508	3.8%	56,451	3.9%
静岡	4,283	110	4,173	100,664	4.3%	100,536	4.2%
愛知	7,877	157	7,720	201,322	3.9%	200,277	3.9%
三重	2,278	63	2,215	49,843	4.6%	50,147	4.4%
滋賀	1,694	57	1,637	39,718	4.3%	39,755	4.1%
京都	2,453	-18	2,471	72,375	3.4%	72,131	3.4%
大阪	6,745	66	6,679	235,580	2.9%	236,700	2.8%
兵庫	5,846	-46	5,892	144,943	4.0%	145,323	4.1%
奈良	1,195	-4	1,199	36,967	3.2%	37,455	3.2%
和歌山	814	-47	861	27,857	2.9%	28,053	3.1%
鳥取	728	-51	779	15,461	4.7%	15,369	5.1%
島根	792	-24	816	18,886	4.2%	18,714	4.4%
岡山	1,631	20	1,611	54,851	3.0%	54,907	2.9%
広島	2,784	-67	2,851	73,258	3.8%	73,624	3.9%
山口	1,739	16	1,723	34,834	5.0%	35,131	4.9%
徳島	549	14	535	19,693	2.8%	19,743	2.7%
香川	945	26	919	26,840	3.5%	26,762	3.4%
愛媛	1,416	-21	1,437	35,109	4.0%	35,543	4.0%
高知	551	13	538	19,431	2.8%	19,492	2.8%
福岡	4,286	0	4,286	132,015	3.2%	132,304	3.2%
佐賀	1,255	17	1,238	25,274	5.0%	25,470	4.9%
長崎	1,996	-27	2,023	39,679	5.0%	40,330	5.0%
熊本	1,585	-74	1,659	48,811	3.2%	49,037	3.4%
大分	1,139	45	1,094	31,851	3.6%	32,226	3.4%
宮崎	1,046	39	1,007	32,052	3.3%	32,598	3.1%
鹿児島	1,511	25	1,486	46,701	3.2%	47,126	3.2%
沖縄	746	-108	854	46,820	1.6%	46,812	1.8%
合計	115,496	381	115,115	3,309,342	3.5%	3,319,114	3.5%

※高校生全生徒数は、文部科学省ホームページ統計情報（http://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/main_b8.htm）内、学校基本調査の高等学校＞全日制・定時制 学年別生徒数 からの抜粋

大会観戦ガイド

第101回日本陸上競技選手権大会男子・女子20km競歩 兼ジャカルタ2018アジア競技大会 男子・女子20km競歩代表選手選考競技会 第29回U20選抜競歩大会

昨年は一昨年に続き高橋英輝選手（富士通）が優勝し、ロンドン世界選手権代表に内定と、毎年盛り上がりを見せている日本選手権競歩。今回も有力選手が出場します！

▼日時：2018年2月18日（日）

▼コース：兵庫・六甲アイランド甲南大学周辺コース

▼種目・スタート時刻

男子20km競歩（日本選手権） 9時50分

女子20km競歩（日本選手権） 10時10分

U20男子10km競歩 8時50分

U20女子5km競歩 9時00分

▼問合せ先：

一般財団法人兵庫陸上競技協会
TEL 078-231-1771

▼日本陸連WEB内大会ページ

<http://www.jaaf.or.jp/competition/detail/1219/>



昨年度の大会の様子

第101回日本陸上競技選手権大会 クロスカントリー競走 第33回U20日本陸上競技選手権大会 クロスカントリー競争

日本陸上競技選手権大会として開催されるクロスカントリー競走。大自然の中の白熱したレースをお楽しみ下さい！

▼日時：2018年2月24日（土）

▼会場：国営海の中道海浜公園クロスカントリーコース
福岡県福岡市東区西戸崎

▼アクセス：

JR鹿兒島線「博多」駅発「香椎」駅乗り換え
「西戸崎」駅下車

福岡市営渡船ベイサイドプレイス発、西戸崎港下船

西鉄バス「天神中央郵便局前」発、「西戸崎駅前」下車
うみなかラインもち（マリゾン）発、海の中道下船

▼種目・スタート時刻

U20女子 6km 10時40分

U20男子 8km 11時10分

シニア女子 8km（日本選手権種目） 11時50分

シニア男子 12km（日本選手権種目） 12時30分

▼テレビ放送予定：

2月24日（土）TBS系列全国28局ネット

▼問合せ先：福岡クロカン運営本部事務局

TEL092-738-2180

▼日本陸連WEB内

大会ページ

<http://www.jaaf.or.jp/competition/detail/1220/>

<http://www.jaaf.or.jp/competition/detail/1220/>

<http://www.jaaf.or.jp/competition/detail/1220/>



昨年度の大会の様子

東京マラソン2018

兼ジャカルタ2018アジア競技大会日本代表選手選考競技会 兼マラソングランドチャンピオンシップシリーズ2017-2018 ～東京2020オリンピック日本代表選手選考競技会～ 兼アボット・ワールドマラソンメジャーズ シリーズXII

12回目を迎える東京マラソン。今年の夏にジャカルタで開催されるアジア競技大会の男子代表選手選考会を兼ねています。今年も多くのご声援をお願いします。

▼日時：2018年2月25日（日）

9時05分 車いすマラソン・10kmスタート、

9時10分 マラソン・10kmスタート

▼会場：スタート／東京都庁前

フィニッシュ／東京駅前・行幸通り（マラソン）、
日本橋（10km）

▼コース：マラソン／東京都庁～飯田橋～神田～日本橋
～浅草雷門～両国～門前仲町～銀座～高輪
～日比谷～東京駅前・行幸通り、10km／東
京都庁～飯田橋～神田～日本橋

▼テレビ放送予定：日本テレビ系全国ネット

2月25日（日）9時00分～（エリートマラソン）

▼交通規制のご案内

HP <http://www.marathon.tokyo/about/traffic/>

▼東京マラソンの交通のご案内等に関するお問い合わせ窓口

TEL 03-6380-7348

（受付時間：10：00～17：00
※土日、祝日、年末年始を除く）

▼日本陸連WEB内大会ページ

<http://www.jaaf.or.jp/competition/detail/1221/>



昨年度の大会の様子

第73回びわ湖毎日マラソン大会

兼ジャカルタ2018アジア競技大会日本代表選手選考競技会
兼マラソングランドチャンピオンシップシリーズ2017-2018
～東京2020オリンピック日本代表選手選考競技会～

男子マラソンのアジア競技大会代表最終選考会としても、熱い争いが繰り広げられます！

▼日時：2018年3月4日（日）12時30分スタート

▼会場（スタート・フィニッシュ）：

滋賀・皇子山陸上競技場

滋賀県大津市御陵町4-1

▼アクセス（皇子山陸上競技場）：京阪石山坂本線「別所」駅から徒歩1分またはJR湖西線「大津京」駅から徒歩7分

▼コース：日本陸連公認びわ湖毎日マラソンコース（42.195km）＝皇子山陸上競技場－柳が崎－瀬田唐橋西詰－石山寺－瀬田川洗堰－瀬田唐橋東詰－県立漕艇場－新瀬田浄水場前折り返し－皇子山陸上競技場

▼放送予定：3月4日（日）

〈テレビ〉12時15分～ NHK総合

〈ラジオ〉12時15分～

NHKラジオ第一

▼問合せ先：

びわ湖毎日マラソン大会事務局

TEL 06-6346-8249

▼日本陸連WEB内大会ページ

<http://www.jaaf.or.jp/competition/detail/1231/>



昨年度の大会の様子

名古屋ウィメンズマラソン2018

兼ジャカルタ2018アジア競技大会日本代表選手選考競技会
兼マラソングランドチャンピオンシップシリーズ2017-2018
～東京2020オリンピック日本代表選手選考競技会～

大型ウィメンズマラソンとして生まれ変わって7年目を迎える名古屋ウィメンズマラソン。女子マラソンの世界選手権代表最終選考会として開催します！

▼日時：2018年3月11日（日）9時10分スタート

▼会場（スタート・フィニッシュ）：

愛知・ナゴヤドーム

愛知県名古屋市東区大幸南1-1-1

▼アクセス（ナゴヤドーム）：

地下鉄、ゆとりーとライン「ナゴヤドーム前矢田」駅から徒歩5分、JR、名鉄「大曾根」駅から徒歩約15分

▼コース：名古屋ウィメンズマラソンコース

▼テレビ放送予定：

東海テレビ（フジテレビ系列全国ネット）

3月11日（日）9時00分～11時50分（選考レース）

▼問合せ先：

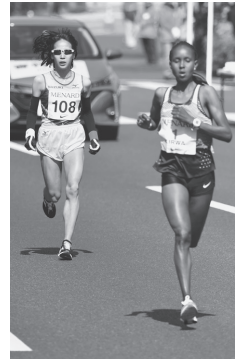
マラソンフェスティバルナゴヤ・愛知ランナーコールセンター

TEL 0570-550661

（平日10：00～17：00）

▼日本陸連WEB内大会ページ

<http://www.jaaf.or.jp/competition/detail/1232/>



昨年度の大会の様子

第42回全日本競歩能美大会

兼Asian20km Race Walking Championships in NOMI 2018

兼ジャカルタ2018アジア競技大会

男子・女子20km競歩代表選手選考競技会

併催 第12回日本学生20km競歩選手権大会

アジア選手権を兼ねて開催する本大会。日本のトップウォーカーがアジアNo.1を目指してハイレベルな争いを繰り広げます。また、今夏、ジャカルタで開催されるアジア競技大会の男子・女子20km競歩の代表選手選考競技会としても開催します。

▼日時：2018年3月18日（日）

▼コース：石川県能美市・

日本陸上競技連盟公認能美市営20kmコース（2.0km周回コース）

▼アクセス（石川県能美市浜小学校付近）：

小松空港からタクシーで約15分。北陸本線「小松」駅もしくは「能美根上」駅下車、小松駅からタクシーで約15分、能美根上駅からタクシーで約3分、徒歩約7分。

▼種目・競技時間：

〈男子〉

中学生 3km競歩 8時50分

全日本・Asian・学生選手権
20km競歩9時30分

〈女子〉

中学生 3km競歩 8時20分

全日本・Asian・学生選手権
20km競歩11時20分

▼問合せ：第42回全日本競歩能美大会実行委員会事務局

TEL 0761-58-2273

▼日本陸連WEB内大会ページ

<http://www.jaaf.or.jp/competition/detail/1233/>



昨年度の大会の様子

JAAF TOYAMA 一般財団法人富山陸上競技協会

〒939-8234 富山市南中田368番地
富山県総合運動公園陸上競技場内
TEL.076-461-5917 FAX.076-461-5927
http://www.jaaf-toyama.net/

昨年は、国際大会、全国大会での本県選手の活躍があり、大変喜ばしい年であった。7月のユニバーシアード台北大会女子ハーフマラソンで城西大学の福居紗希が第3位、8月には全国高校総体男子200mで富山商業高校の福島聖、全国小学生交流大会女子ジャベリックボール投で杉原小学校の坂井希良来、9月の全日本学生選手権男子800mで順天堂大学の村島匠、10月のU18日本選手権男子100mで富山第一高校の辰巳新がそれぞれ優勝した。また10月の国民体育大会では大会5日間連日、計10種目での入賞があり県新記録等も誕生した。中でも、男子400mRでの県勢初の入賞（準決勝での39秒台）は、本県陸上界にとっては新しい歴史を開く出来事であった。日本人初の9秒台や世界大会での400mR上位入賞と日本の短距離のレベルが高くなっている中でこのことであり、大変価値のあることと思っている。これらの結果について、日々鍛錬を積み重ねる選手達に敬意を表するとともに、指導者、保護者や関係のみならず、また、県内外の合宿でお世話になった方々にも感謝を申し上げたい。

今後、適正且つ円滑な競技運営のための審判講習会の充実と審判員確保のための高校生への呼びかけ、普及活動の充実をめざしたクラブチームの実態把握や連携が必要と考えている。また、昨今のスポーツ界を取り巻く環境の変化や事案の発生に鑑み、競技に関わるものすべてが陸上競技を愛する者として、品位を保持し互いに人格を尊重し合うこととセクハラ・パワハラ・暴力・暴言・ドーピングの根絶をめざし、日本陸連倫理ガイドラインに習った協会倫理規定（仮称）の作成と啓発等の課題にも取り組んでいきたい。

JAAF ISHIKAWA 一般財団法人石川陸上競技協会

〒923-1244 能美市来丸町W50 物見山陸上競技場内 2階
TEL.0761-51-3222 FAX.0761-51-3222
http://gold.jaic.org/jaic/member/ishikawa/index.htm

今季の輝かしい成績では、全日本学生選手権大会で、石川県出身の中村水月（大阪成蹊大学）の100m、200m、400mRの3種目での優勝があげられます。

愛媛国体では、少年女子A走幅跳吉岡美玲（星稜高校）、少年女子B800m澤井柚葉（星稜高校）の43年ぶりの県記録での準優勝、成年女子5000m五島莉乃（中央大学）、少年女子B走幅跳鞍田沙耶佳子（星稜高校）、成年男子110mH尾形晃広（GOLD'S GYM）少年男子A400m野田大河（七尾高校）、少年男子A棒高跳林良樹（金沢高校）成年女子5000m競歩吉田優海（遊学館高校）の入賞でした。

石川陸協強化部で様々な強化活動を実施してきた中、12月に白石宏先生をお招きして2年目となる指導者クリニックを開催し、身体へのねじれを改善する方法や脳のトレーニングでのパフォーマンスを高める方法など、練習だけではなく、強くなるための心身のコンディショニングを見直すことの大切さを学びました。

第36回全国都道府県女子駅伝競走大会は、平均年齢10代の若いメンバーで臨みました。京都石川県人会の応援もいただき、10位台を目指し、1区から19位、2区、3区で10位と好位置につけ流れをつかみかけましたが、アシデントで順位を落とし、33位でした。それぞれの持ち味と力を発揮してきて完走することができ、来年につなげるレースだったと思います。

西部緑地公園陸上競技場では、大型スクリーンが日本海側最大のオーロラビジョンに生まれ変わります。陸上競技の成績だけでなく、みなさんこちらでも期待ください。

（文責：副専務理事 池岸晃弘）

JAAF FUKUI 一般財団法人福井陸上競技協会

〒918-8585 福井市三十八社町33-66 フクビ化学工業株式会社内
TEL.0776-38-0360 FAX.0776-38-0361
http://www.fukui-jaaf.com/

2017年度は、福井県において『天皇賜盃第86回日本学生陸上競技対校選手権大会』が、開催されました。全国から約3500人の学生が来福し、母校の名誉をかけ、学生のトップアスリートが競技を行いました。公益社団法人日本学生陸上競技連合松本正之会長をはじめ、関係者の皆様には二年間の準備期間中、大会時間中においても大変お世話になり心より感謝申し上げます。

この大会を迎えるにあたり、福井陸上競技協会として

- ①学生アスリートに、最高の競技環境（競技運営、宿泊、観客数、競技場までの移動）を提供し十分力を発揮していただく。
- ②福井県民に日本のトップアスリートの競技を見ていただき、感動と興奮を味わってもらおう。
- ③2018年度に開催される『2018ふくいしあわせ元気国体』にむけ、福井県全体の気運を高める。

ことを最大の目的とし、精一杯準備させていただきました。その中で桐生祥秀選手（東洋大学）が100mにおいて日本人初の9秒台となる、9秒98を記録してくれました。このことは、スポーツ界にとどまらず社会現象となりにまさに各方面で話題になるたびに心が熱くなります。

この歴史的瞬間の競技運営に携わることができ、福井陸上競技協会としてはこの上ない幸せを感じています。

今年は、いよいよ『2018ふくいしあわせ元気国体・元氣大会』の年になります。この両大会においても、参加選手すべての選手が自己ベスト記録を更新できるよう、心を込めて準備いたします。

（文責：専務理事 木原靖之）

JAAF NAGANO 一般財団法人長野陸上競技協会

〒381-0038 長野市東和田632 長野市営陸上競技場内
TEL.090-1867-7044 FAX.026-295-7044
http://nagano-rk.com/

駅伝で活躍

天皇盃全国男子準優勝、皇后盃全国女子9位、高校男子優勝（佐久長聖高校）、高校女子準優勝（長野東高校）2018年もこの勢いのりがんばります!!

陸連U-19 合宿開催

2017年度日本陸連U-19強化研修合宿・全国高体連陸上競技専門部合宿 北信越地区合宿が、長野県松本平広城公園陸上競技場で、暮れの12月25日（月）～28日（木）に開催され、北信越五県の高校生トップアスリート209名が熱心に取り組んだ。講師は日本陸連のご配慮で競技者向けには、メダリストの塚原直貴さん（富士通）、オリンピック川元奨選手（スズキ浜松AC）、日本選手権者嶺村鴻汰選手（富士通）による講話と管理栄養士（公認スポーツ栄養士）の島田まゆみ先生（長野市社会事業協会）による栄養講習会が行われた。指導者向けには高松潤二教授（流通経済大学）の「トレーニング科学」と大前裕介先生（(株)ドーム）による「トレーニング理論」の講義があった。実技は各県のコーチ並びに前述した選手による懇切丁寧な指導により、寒風の中、2018年全国高校での優勝・入賞を目指して熱心に取り組んでいた。2018年シーズンの活躍を大いに期待したい。

（文責：代表理事/理事長 内山了治）



陸協NEWS



JAAF
SHIZUOKA

一般財団法人静岡陸上競技協会

〒420-0839 静岡市葵区鷹匠1-14-31 吉野寿ビル2階
TEL.054-253-9801 FAX.054-253-9801
<http://www2.wbs.ne.jp/nagata/t&f/>

昨年末、静岡県内では2つの大きなレースが開催されました。12月2日、第18回しずおか市町対抗駅伝競争大会では、県内の全39市町が参加しました。県庁前をスタート地点とし、静岡市葵区〜清水区〜駿河区を走り抜け、ゴール地点である草薙陸上競技場まで11区間42.195キロのコースで競われました。結果は、市の部は浜松市北部が2時間12分39秒で優勝し、町の部は函南町が2時間18分43秒で優勝しました。12月30日には、全日本大学女子選抜駅伝大会（富士山女子駅伝）が富士宮市富士山本宮浅間大社前をスタート地点とし、富士総合運動公園陸上競技場までの7区間、43.4キロのコースで行われました。立命館大学が2時間23分46秒で5連覇を達成しました。オープン参加の静岡県と中国浙江省の合同チームは2時間34分53秒でした。2018年を迎え、静岡県では大きなイベントがあります。2月18日、第14回浜松シティマラソンが開催されます。公認ハーフマラソンの部は、浜松市役所をスタート地点とし、市内中心部、遠州路を走り抜け、浜松四ツ池公園陸上競技場をゴールとするコースです。5キロ、3キロの部を含めると1万人近いエントリーがあります。3月4日には静岡マラソン2018が開催されます。昨年は絶好のコンディションのなか1万2000人のランナーが参加しました。今年は昨年と同じ静岡市葵区役所前をスタートし、静岡市街地〜安倍川橋〜久能海岸〜JR清水駅前をゴール地点とし、42.195キロ公認コースで行われます。（文責：広報報道委員長 水谷陽介）

JAAF
GIFU

一般財団法人岐阜陸上競技協会

〒502-0841 岐阜市学園町3-49 仁科ハイイツA-102
TEL.058-294-6494 FAX.058-294-6491
<http://www.gifu-riku.com/>

尾藤義昭新会長をお迎えし、新体制でスタートした2017年度も残すところ2ヶ月となりました。各種大会、事業にご指導ご協力を賜り深く感謝申し上げます。

●2017年世界大会出場者、全国大会優勝者（本県出身者含）

- ・世界陸上…安藤友香（スズキ浜松AC）女子マラソン17位
- ・世界クロカン…堀優花（パナソニック）女子10km 23位
- ・日本選手権…青木沙弥佳（東邦生命）女子400mH
- ・全日本実業団…間宮里葉（アクロス）女子棒高跳
- ・日本学生…赤松諒一（岐阜大学）男子走高跳
- 五藤怜奈（中部学院大学）女子10000m競歩
- ・全国高校総体…岐阜聖徳学園高校、男子400mリレー
- ・U20日本選手権…吉田佳純（駿河台大）女子400mH
- ・U18日本選手権…山下航生（市岐阜高商）男子砲丸投、円盤投
- ・全日本中学…岩垣勇司（神岡中）男子400m

●アジアジュニア（6/7～10）に向けて

第18回アジアジュニア陸上競技選手権大会が、6月7日～10日、岐阜メモリアルセンター長良川競技場で開催されます。アジアの選手・コーチの皆さんが、最大限の力を発揮できるように全力をあげて準備にあたっております。皆様のご来県を心よりお待ちしております。（文責：常務理事 安福弘典）

JAAF
AICHI

一般財団法人愛知陸上競技協会

〒460-0012 名古屋市中区千代田2-19-16 千代田ビル7F
TEL.052-249-4363 FAX.052-249-4366
<http://www.aichi-rk.jp/>

全国都道府県対抗駅伝大会、1月14日（日）京都での女子は8位入賞。途中順位を下げたものの、最後まで諦めることなくよく健闘し、連続入賞をつなぐことができました。1月21日（日）広島での男子は、直前に予定していた選手が故障で走れなかったアクシデントもあり、結果は18位。ただ男女とも、次につながるレースができており来年に期待したい。今年度は、世界選手権大会の年であり、愛知陸協登録者では、丸尾選手（男子50km競歩・愛知鋼鋼）と山本選手（男子棒高跳・トヨタ自動車）の2名が出場しました。丸尾選手は5位入賞を成し遂げ、東京オリンピックのメダル候補とし期待が高まります。その他、日本選手権大会では、女子100m・200mの2冠に輝いた市川選手（ミズノ）、国体成年男子円盤投で優勝した湯上選手（大会新記録・トヨタ自動車）、インカレで優勝した鈴木選手（男子棒高跳・中京大学）・小林選手（女子100mH・愛教大学）その他多くの有望選手がおります。一人でも多くオリンピックへの出場を願っております。現在、協会では、2月25日（日）の読売犬山ハーフマラソン、3月11日（日）の名古屋ウィメンズマラソン2018の準備のため、連日会議を重ね忙しい日々が続いております。また、強化委員会を中心に、来年度にむけ、国体強化指定選手練習会、ジュニア部練習会、競歩教室、各支部陸協の陸上教室等が盛況に行われております。（文責：専務理事 稲垣裕）

JAAF
MIE

一般財団法人三重陸上競技協会

〒516-0023 伊勢市宇治館町510 三重県営総合競技場陸上競技場内
TEL.0596-22-8890 FAX.0596-63-5337
<http://www.mierk.jp/menu/index.htm>

今年、ついに三重インターハイが開催されます。さらに2020年には全日中、2021年には国体と全国大会が次々と三重県で開催されるため、それらを占う意味でもインターハイの成功が大きなカギとなってきます。昨年10月中旬に会場となる三重交通Gスポーツの杜伊勢（三重県営陸上競技場）が完成し、三重インターハイの前哨戦ともいえる東海高校新人が10/28、29に開催されました。しかし、台風による悪条件の中での競技となりました。その前週10/22の県小学生大会も台風で中止となっていたため、せっかく前年に新しい競技場が完成したにもかかわらず、満足に使用することなく2017トラックシーズンが終わりました。とはいえ、インターハイは成功させなくてはなりませんので、あと半年間のラストスパートを三重陸協の腕の見せ所です。また、大会の成功のためには地元選手の活躍が大きく影響してきます。強化委員会を中心に選手の強化、発掘に力を入れてきました。高校1年生、2年生と中学3年生の強化指定選手制度を実施し、合同練習会や指導者講習会を多数開催してきました。それにより、選手、指導者の実力を向上させるだけでなく、交流を増やし各校、各選手が切磋琢磨できる環境も作ってきました。多くの地元選手のインターハイ出場とそこの活躍に向けて「チーム三重」で取り組んでいます。昭和48年三重インターハイの感動をもう一度。（文責：広報部 中村恭和）

事務局からのお知らせ

◆◆【ボランティア大募集／岐阜県開催！】第18回アジアジュニア陸上競技選手権大会◆◆

第18回アジアジュニア陸上競技選手権大会において「大会運営ボランティア」「通訳ボランティア」大募集中！あなたもボランティアとして大会をサポートしませんか!?

〈募集要項〉

▼応募資格：

- ・18歳以上（平成30年4月1日現在）で事務局が開催するいずれかの研修会に参加できる方（高校生不可）
- ・通訳ボランティアは、日本語といずれかの募集言語で日常会話が支障なく話せる方。

▼通訳ボランティア募集言語：

英語、中国語、韓国朝鮮語、ロシア語、アラビア語、ベトナム語、その他アジア各国の言語

▼活動内容：会場案内、観客誘導

▼活動日：平成30年6月5日（火）から11日（月） 1日単位での参加可

▼活動場所

- ・岐阜メモリアルセンター（岐阜市長良福光大野2675-28）
- ・選手宿舍等（岐阜市内、羽島市内等）

▼募集人数：通訳ボランティア 120名／運営ボランティア 50名

▼募集期間：平成30年2月28日（水）まで（第2次募集中）

▼申込先：<https://v3.apollon.nta.co.jp/asia-v/>

▼研修会

- ・以下の日程で研修会を行いますので、いずれか1回ご参加ください。
別途4～6月に現地研修会を予定しています。詳細は後日ご案内します。
- ◇岐阜会場 じゅうろくプラザ [10:00～15:00]
- ・3月11日（日）・3月15日（木）
- ◇名古屋会場 ウィンクあいち [10:00～15:00]
- ・2月18日（日）・3月10日（土）・3月18日（日）



陸連時報編集委員

◇編集委員

横川 浩（陸連会長）
友永 義治（陸連副会長）
八木 雅夫（陸連副会長）
尾縣 貢（陸連専務理事）
麻場 一徳（陸連強化委員長）
風間 明（陸連事務局長）
高橋 克実（陸上競技マガジン編集長）

◇時報編集室責任者

大嶋 康弘
◇時報編集担当
繁田 進
石塚 浩
木越 清信
宮田 宏
廣瀬 静香

陸連時報編集室

〒163-0717
東京都新宿区西新宿2-7-1
小田急第一生命ビル17階
公益財団法人日本陸上競技連盟 内
TEL 03-5321-6580
FAX 03-5321-6591
WEBサイト <http://www.jaaf.or.jp/>
公式動画サイト <http://japanathletics.tv/>